



～JA事業紹介編～ まんが:じつく

第102話 ～米穀課より～

みんなで取り組む“おいしい米づくり”



主人公の一人瀬なおさんは、現在地元の高校に通う16歳。そろそろ就職か進学か決める時期。JAに勤めている姉の話聞きながら、将来の自分を見つめます。今年産米の収穫が盛んに行われています。良質米を安定生産・出荷できるようにみんなで協力し、おいしい米づくりに取り組んでいます。



赤荻 優司 (58)
米穀課のJA職員



カントリーエレベーター
収穫した米(もみ)を預かり
出荷まで蓄えておく施設

良質米生産の流れ



米の品種管理、
種もみ・育苗の販売など
農家に種もみや苗を販売、
配達もする



米の集荷
生産者持ち込みの他、
要望があれば庭先まで
集荷に何う



米の生産指導、座談会
種まき、育苗、田植え、
病虫害防除、刈り取りに
ついての指導



米の乾燥、調整
搬入したもみを乾燥、
もみすりし、玄米へ



ヘリコプター防除対応
経済課の指導により
営農経済センターが
オペレータースタッフや
農家組合の対応をする



生産者が出荷した米の検査
農産物検査員の資格所有者が
検査を行う

そこで米穀課では
営農経済センターや
経済課と協力しながら
良質なお米を生産できるよう
サポートを行っているんだよ

お米専門の
課があるなんて
さすが米どころ



米は管内で
第一位の生産量と
大規模だからね



ええ
自慢のお米を
たくさんの方に
食べてもらいた
いからね!

“おいしい米づくり”は
わたしたち生産者と
JAの米穀課の皆さん
営農経済センター
経済課の皆さんが
携わっているんですね



米の出庫作業
配送など

米倉庫にて温度、
湿度を適切に管理



一方消費者の方へは
自慢のお米を安全・安心に
お届けできるよう
年間を通して品質を
管理し出荷しています